

別紙

事業評価総括表

単位：円

番号	措置名	交付金事業者名又は 間接交付金事業者名	交付金事業に要した経費	交付金充当額	備考
1	公共用施設に係る 整備、維持補修又は 維持運営等措置	出雲市	2,665,440円	2,197,000円	

(備考) 事業が二つ以上の場合は必要に応じ欄を設けること

・事業評価個表

番号	措置名	交付金事業の名称	
1	公共用施設に係る整備、維持補修又は維持運営等措置	日の出用排水路整備工事	
交付金事業者名又は間接交付金事業者名		出雲市	
交付金事業実施場所		出雲市佐田町下橋波地内	
交付金事業の概要	<p>日の出用排水路は、市道日の出1号線沿に位置し、農業用水の供給及び路面排水を含めた排水機能を有しています。既設水路は、県道出雲三次線の改築時に設置したU字フリームで、昭和40年代に施工されています。経年劣化による漏水の影響で、田植えの時期には用水量が不足しています。また、漏水は道路を横断し反対側の水田に湧き出しており、刈取り作業に支障を来しています。</p> <p>また、市道日の出1号線は、昭和63年に県道改良工事（バイパス）の完了に伴い、市に委譲された路線です。橋波地域の集落と窪田地域の集落間を結ぶ主要な生活道路であり、スクールバスや農業機械の大型化に伴う大型積載車両など、大型車の往来もあります。しかし、道路幅員が3.5mと狭いため離合ができず、交通に支障を来しています。また現況水路（日の出用排水路）は50cm程度の深さがあり、通行車両の脱輪、歩行者の転落の危険性があります。平成26年度には下橋波地区の地元代表（土木委員）からさらなる改善要望が求められています。</p> <p>本事業で蓋の架かった用排水路に改良することにより、用水供給と耕作条件を改善するとともに、住民の安定した生活と安心できる交通を確保します。</p> <p>用排水路工L=60m（内訳 自由勾配側溝工L=58.9m、コンクリート蓋49枚、水路工グレーチング蓋4枚、集水柵蓋N=1箇所、集水柵工グレーチング蓋2枚）</p>		
総事業費（円）	2,665,440円	交付金充当額（円）	2,197,000円
交付金事業の成果目標	<p>本地域は、平成22年度に電源立地地域対策交付金を活用し、用排水路整備を実施しています。漏水による水田への悪影響及び幅員が狭いため通行車両の脱輪や歩行者の転落の危険性を来す区間は115mあり、早急な改善が求められています。平成22年度には用排水路55mを整備し、漏水改善及び通行の安全性は増しておりますが、まだ早急な改善が求められています。今回地元要望のあった残り60mを整備することで、さらなる漏水改善及び通行の安全性が増加します。</p> <p>本整備工事の実施で用排水路及び生活道路に対する満足度向上を目指します。地域住民の電源開発への理解・協力が得られ、ひいては発電用施設等の設置及び運転の円滑化に資すると考えられます</p>		
交付金事業の成果指標	<p>上記、成果目標を達成するため整備工事を早急に実施します。地域住民の安全安心な生活道路に対する満足度100%を目標とし、整備工事完了後に下橋波地区の住民にアンケート調査を実施します。また、現地には看板設置による電源立地地域対策交付金の活用を周知し、満足度の達成状況について確認します。</p>		

<p>交付金事業の成果 及び評価</p>	<p>実施延長60mの用排水路整備事業が完了しました。 事業後のアンケート調査では、用水路整備による用水漏水改善の成果として、用水利用者全員から用水増量の回答を得ており、かんがい期の用水不足解消につながっています。また、狭隘な道路を拡幅改良した成果として、道路利用者の9割以上の方から安全で安心できる道路になったとの回答を得ました。こういった点から、当初の目標であった満足度をほぼ達成できたと認識しています。 地域住民において、事業開始まではこの交付金について認識がありませんでしたが、事業実施により水力発電への理解が深まりました。</p>		
<p>交付金事業の契約の概要</p>			
<p>契約の目的</p>	<p>契約の方法等</p>	<p>契約の相手方</p>	<p>契約金額（円）</p>
<p>用排水路整備</p>	<p>指名競争入札</p>	<p>株式会社 井口組</p>	<p>2,665,440</p>
<p>計</p>			
<p>成果及び評価に係る第三者機関等の活用の有無</p>	<p>無</p>	<p>交付金事業の成果の再評価を行う場合の予定年度</p>	<p>無</p>

（備考）

- (1) 事業ごとに作成すること。
- (2) 番号の欄は、事業評価総括表における番号欄に対応した数を記入すること。
- (3) 交付金事業の成果目標の欄は、発電用施設周辺地域整備法第1条（目的）を踏まえて具体的に記載すること。
- (4) 交付金事業の成果指標の欄は、成果目標を踏まえて定量的な指標を記載すること。
- (5) 交付金事業の成果及び評価の欄は、進捗度、利用量並びに効果等を出来る限り数値を用いて記載すること。
- (6) 交付金事業の契約の概要の欄は、契約件数が二つ以上の場合には必要に応じ欄を設けること。
- (7) 成果及び評価に係る第三者機関等の活用の有無の欄については、第三者機関等を活用した場合にあっては、その名称及び構成員等を記載すること。